



上川井だより

令和5年5月31日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎 真紀子

6月号

これからの「上小オリンピック」

副校長 荒海 透

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、今月の8日に「2類相当」から「5類感染症」になりました。今月初めのゴールデンウィークは、コロナ前のように各観光地に向かう車の渋滞の様子や人々の大行列にコロナ以前の生活が戻ってきたことを実感したものです。

あれから約3週間経った先週の土曜日、晴天の下、第55回上小オリンピックが行われました。上川井小学校としても今年度は、昨年度までの制限を緩和し、より多くの保護者の皆様や地域の皆様にご覧いただくことができました。たくさんの温かいご声援を受けて実施できましたことは、子どもたちにとってなによりも励みになったことと思います。改めて感謝申し上げます。

世の中を見渡しますと、コロナ前の状態に戻ったものもあれば、コロナを経て以前とは少し形を変えたもの、なくなってしまったもの、新しくできたもの、など様々です。上小オリンピックはどうでしょうか。「以前とは少し形を変えたもの」になると思います。午前中の開催となったことは、近年学校生活にも大きな影響を及ぼすようになった熱中症対策の影響もあり、コロナの影響だけとはいえませんが、変わったことの一つです。その他にも保護者の皆様のご参観の仕方や競技内容の一部に変化が見られます。しかしながら基本となる演技や競技、応援団や高学年児童の上小オリンピックを支えるための様々な活動は今まで通り残すことにしました。私たち教職員も限られた時間の中でよりよい上小オリンピックにするために何を残し、何を省いていくのかを考え、話し合いながら進めてきました。思い悩むこともありましたが、当日の子どもたちのはじける笑顔や全力を出し切れたという満足した表情を見て、目指すべき方向性は間違いではなかったと感ずることができました。

連休明けからの準備や練習では、低・高学年による演技、低・中・高学年による競技、高学年によるオリンピック委員会、全学年によって構成されるなかよし班のたてわり競技、開閉会式と様々な学年との関わり合いがたくさん見られました。そこでは上級生が下級生に声をかけたり話し合いをまとめたりするといったリーダーシップや優しく教えたりお世話をしたりする思いやりにあふれた行動、また上級生を頼りにして一生懸命についていこうとする下級生の姿がありました。なかよし班活動が普段から行われている上小ではこのような様子は常日頃から見られていますが、上小オリンピックのような全校を挙げての大きな行事では、その態度がより一層引き出され、自然と育まれていきます。そういった意味では、上小オリンピックは上小の日常がより強く表れた一日ともいえます。

これからの上小オリンピック、それはこれまで上小で受け継がれてきた素晴らしい財産に改めて目を向け、しっかりと残し、大切に育てていくオリンピックにすることだと感じました。今後も新しい流れを取り入れつつ、本校に受け継がれてきたよさ、足元を見つめながら教育活動を展開していきたいと思っています。